

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（５月定例会）
開催日時	令和８年５月22日（金）午後２時から午後４時まで
開催場所	田無庁舎１階 102会議室
出席者	委員：川原議長、松本副議長、伊尻委員、岩穴口委員、山本委員、大宮委員、堀田委員、河野委員、高橋委員、田口委員 事務局：古川地域学習推進課長、鬼頭地域学習推進係長、石島主事
議題	（１）今後の活動について
配付資料	
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
議題（１）今後の活動について ●事務局より、今回５月と次回６月の定例会は、前回の会議で決まった通り、現役世代の生涯学習の課題について議論することを説明。また課題の議論において、委員各位には自身の活動や実体験、文献調査等を通じて感じたことなどについて発表頂くことを説明。 ●議長：事務局から説明があった通り、委員各位には一人ずつ発表をして頂きたい。 <委員の発表①> ○委員： <概要> ・私はまちづくりやエリアマネジメントの活動を行っているが、その活動の中で生涯学習にあたると思う事例について紹介する。 ・エリアマネジメントの定義は、「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者 等による主体的な取り組み（国土交通省より）」であり、私はまちづくりとエリアマネジメントを同じものとして捉えている。 <事例紹介（抜粋）> ①地域の繋がりづくりに繋がった事例（書道ワークショップ） ・引っ越したばかりで知り合いがいない中、本ワークショップを通じて地域との繋がりができた方の事例。 ・その方は、その後自分が講師として教える立場となり、地域の繋がりづくりに貢献したいという思いで活動を続けている。 ②地域の企業との連携の事例（まちにお講座） ・組織のメインバンクの銀行に協力を依頼し、子どもたちへお金について講座を開いて頂いた。 ③多世代交流、ボランティア参加の事例（木育キャラバン） ・木のおもちゃの遊びを通じ、木について学び、そして多世代交流にも繋がった事例。 ・地元の方がボランティアとして参加し、そして地域を学ぶ。教える・学ぶ以外にも、こうした参加の形もある。 以上のように、街の中の生涯学習にも色々なパターンがある。	

○議 長：紹介された事例について、どのような世代の方が参加されたのか。

○委 員：大人は30代から40代までが多く、児童は小学校・中学校が主に参加している。講座の内容にも寄るため年齢だけで区切ることは難しい。

○議 長：③の事例について、ボランティアで参加された方の参加したきっかけは何か。

○委 員：理由としては、時間が余ったから・おもちゃが好き・過去に子育て支援施設にいた（あるいは今もいる）・自分の子供が参加したから興味を持ったなど。

○議 長：②について、銀行へは最初どのように声をかけたのか。

○委 員：組織のメインバンクだったため、普段のやり取りの中で話をした。銀行は地域の方との接点を求めており、こちらは商品ではなくお金に関するノウハウを求めていたので、それぞれの強みを考えて声をかけた。
他にも、例えば防災の分野では、災害時には水が重要になるため、飲料メーカーに協力をしてもらった。

<委員の発表②>

○委 員：

<概 要>

- ・私が社会教育士の講座を受講した経緯、その中で課題に感じた事等について発表をする。

<経 緯>

- ・発達に課題がある子ども向けにICT活用を広げたいという思いが出発点だった。教育の場にICTを広めるには教員の立場になった方が良くと考え、実務家教員を目指して大学院に通い始めた。
- ・実務家教員は社会人経験者、行政関係者、教員、リスクリングのため入学した人など、色々な立場の方がいて、社会教育とも密接な部分がある。
- ・ゼミの教授が社会教育を専門としており、私の「先生方と一緒にICTを子どもたちに広めたい」という思いも社会教育にあたると思うと指摘してくださり、自分がしていることが社会教育であると自覚するようになった。
- ・そのような中、大学院にて社会教育士の講座が始まり、社会教育の場でもコミュニケーションをとっていきたいと考え、講座を受講しようと思うようになった。

<課題に感じたこと>

- ・講義の中で、「これから人口減少・少子化が進んでいく中で、現役世代の生涯学習への参加も低調な状態にあり、今の枠組みのままでは生涯学習を持続的なものにすることは難しい。周辺自治体との関係を構築していくことで持続的なものにすることも大事である。」ということが印象に残っており、現役世代の生涯学習への参加が重要になると感じた。
- ・大学院卒業後は、内閣府のオープンバッジのプロジェクトに参画し、気仙沼のまち大学にも携わっている。まち大学では、講座の企画、運営など教育委員会が一枚岩となって実施しており、市民の方も参加しやすい仕組みとなっている。
当市においては、講座によって各課、各施設等に案内が分かれてしまう場合があるため、そういったところも今後注視していきたい。

○議 長：社会教育士の講座を受講するにあたり、費用面で課題はなかったか。

○委 員：大学院の講義の中で単位を取得することができたため、追加の費用等はなかった。ただし、一般的に本講座を受講するためには数十万の費用がかかる。

○委員：オープンバッジについて、東京都の自治体で採用例はあるか。

○委員：港区役所で採用例があると聞いている。進学面でも活用できるため、学校教育でも採用されている。

○委員：社会教育士のネットワークがあまり構築できていないように思うが、市として社会教育士の名簿等はあるか。

○事務局：本市において、社会教育士の名簿等の作成は行っていない状況である。

○委員：講座の受講には時間的・経済的な負担があるため、社会教育士がどのように活躍できるか含めて考えていくことが望ましいと考える。

<委員の発表③>

○委員：

<概要>

- ・現役世代の生涯学習の課題について、文献調査をした結果を発表する。また、調査に加えて自分自身の活動の中で感じたことについても発表する。
- ・社会人の間でも生じる教育格差をテーマにした記事を調査した。

<課題に感じたこと>

- ・規模の大きい会社では、より有給がとりやすく、テレワークも対応していることによって時間に余裕が増える傾向がある。一方で、規模の小さい会社ではそういった対応が難しい傾向がある。
- ・地方では、子育て等の負担が女性に偏る傾向があり、女性の学習機会の平等化に課題がある。
- ・内閣府の生涯学習に関するアンケートを見てみると、学習をしない理由について、「特に必要がない」「きっかけをつかめない」「身近なところに学習する場がない」等の理由が見られる。
- ・また、最近見学した「西東京市若者会議」等から、市政への参画やボランティア等に対して意欲が高い若者が多いと感じている。このように、興味があっても参加も容易な層、そして興味はあるものの参加する場が無い等で参加できない層の二極化が進んでいるようにも思える。

○委員：働き方について、私自身、企業で働いていた時は社費で研修を受けることができたが、今は個人事業主となり、学習にかかる費用の負担を実感している。

○委員：学習のきっかけがつかめない、という意見について、私が教員だった時は、東京都の教員から何十名か選び、研究所において研究することができる制度があった。私は学校の課題を解決したいと思ったことがきっかけで本制度に応募した。このような制度を自治体でも広げていく必要があると思う。

○委員：学ぶきっかけについては、もっと気楽で身近な例として、地域のお祭り等への参加もきっかけになり得るのではないかと思う。

○委員：私のきっかけは、公民館の保育室に子どもを預けて講座に参加できると知ったこと。気軽に参加できると思った。

○委員：二極化については、参加意欲の高い人たちと比較的軽い気持ちの人たちの違いもあると思う。参加意欲の高い人たちだけが残りと、軽い気持ちの人がますます参加し辛くなっていくという話を聞いたこともある。

○委員：社会教育は受け身ではなく、どのような講座があるか調べる等して、自分から情報を掴みにいくことが大事であると思う。

○委員：学ぶ時間があったら、せっかくなら仕事につながることを学びたいと思う人が多い。ボランティア活動なども、就職活動に役立つから参加するという人が多いと聞いている。

○委員：企業の研修については、仕事に役立つスキルを学ぶものと、CSR (Corporate Social Responsibility) 活動の一環として、人としての成長のための幅広い学びの2パターンがある。

<委員の発表④>

○委員：

<概要>

- ・社会人の知人へ、「今なにをやりたいか（学びたいか）」についてインタビューした結果を発表する。

<課題に感じたこと>

- ・業務に繋がることを学習したいという意見が多い。例えば、昇格に必要なので学ぶなど。
- ・教員の方で、昇進のためではなく、生徒から質問を受けても答えられるように、色々なことを学びたいという方がいた。
- ・時間と費用の課題が多く挙げた印象を受けた。他にも、学ぼうとしても自治体の講座は、夜は開催されていないという意見や、既にテーマが決まっていて、自分たちでテーマを決めて学ぶことができない、という意見もあった。
- ・インタビューを通じて、生涯において楽しく生きる喜びを感じながら地域に住み続けたいと思えるような、学習の機会を設けられると良いと思った。

○委員：比較的緩やかな学びの活動例として、「スナック部室」という活動がある。本活動の中にはテーマを決めずに集まり、その場でテーマを決めて部活を立ち上げるという活動もある。

●議長：本定例会ではここまでとし、今回発表ができなかった委員については、次回引き続き発表いただくこととしたいがよろしいか。

一同、異議なし

次回会議

日時 令和8年6月26日（金）午後2時

場所 田無第二庁舎3階会議室